

北海道遺産  
Hokkaido Heritage

北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第115号  
(隔月刊)

発行：2024. 3.31

(令和6年3月31日)

発行人：中山 一夫 (理事長) 編集人：伊藤 悟 (副理事長)

NPO 法人ピアソン会事務局  
(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel. FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

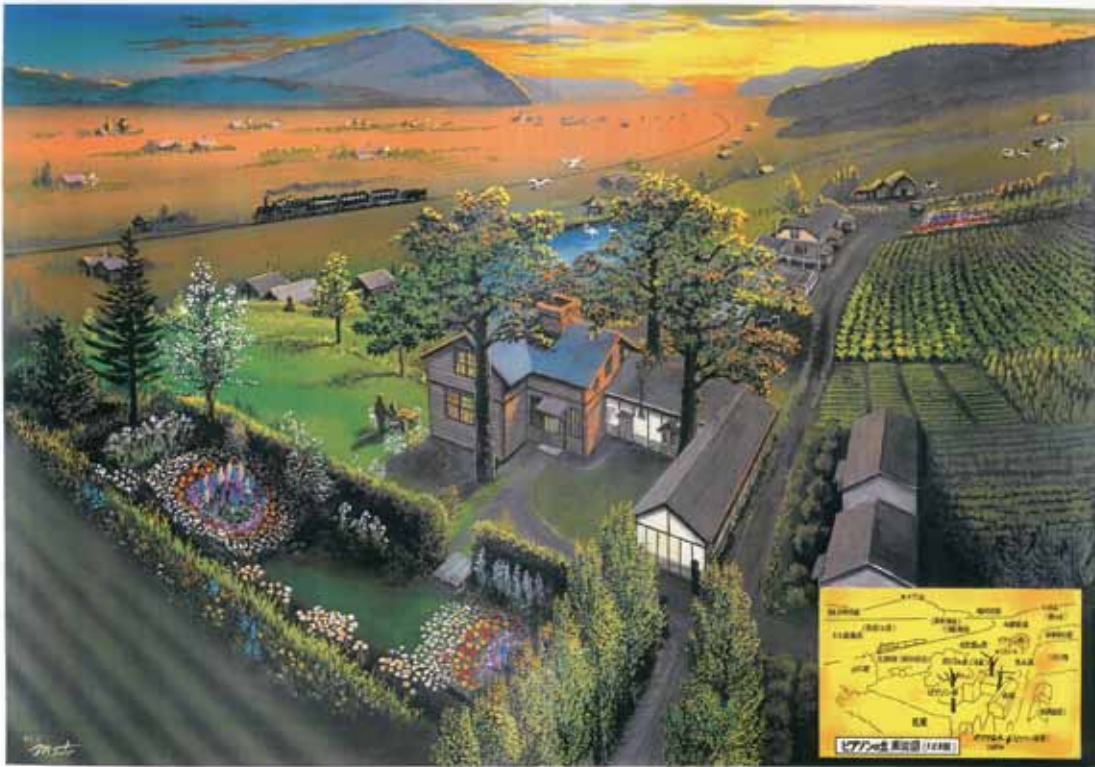
午前9:30～午後4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

ピアソン便り

# ピアソン邸 古老達の記憶で鳥瞰図製作!



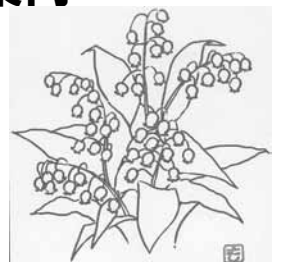
【写真絵】故佐藤元治郎氏による、大正13年頃のピアソン邸想像復元鳥瞰図。  
2004年6月製作完成。

上の掲載鳥瞰図は、20年前佐藤氏とピアソン会が市内古老たちから、「思い出のピアソン邸付近」を聞き取り調査し、当時の写真なども参考に、想像復元したもの。ピアソン邸に関して人々により伝えられていたのは、「ポプラ並木」・「お花畑」・「三本の大きな柏の木」・「高台から眺める夕日」・「遠くに見える北光社本部」・「鉄道路線」・「ピアソン寮」・「日本館と呼ばれた座敷のある建物」など。しかし、これらを網羅した画像がないことから（個々には写真として残ってはいる）、鳥瞰図製作が佐藤氏の申し出により企画された。これにより、ポプラ並木は何処にあったのか？ お花畑は？ 日本館は？ 大きな池の北光園は？ など、不明であった位置関係が解るようになった。完成した鳥瞰図を見た古老達は、『そうそう、こんなポプラ並木だった!』・『この日本館の縁側で日向ぼっこした!』などと、思い出話に花が咲いた。

現在、この絵の作者も古老達も亡くなられた。当時の思い出を語る人はいなくなったが、この鳥瞰図が、ピアソン記念館玄關ホールで来館者を迎えてくれている。ポプラ並木、日本館などは今は無い。

## ピアソン会「総会」の開催案内

- ◎ 開催日時 : 2024年5月25日(土) 午後4時30分
- ◎ 開催場所 : ピアソン記念館内 北見市幸町7丁目4番28号
- ◎ 参加資格 : 運営会員・賛助会員・団体会員・その他
- ◎ 総会内容 : 2023年度事業・決算報告、2024年度事業・予算(案)、
- ◎ その他 : 顧問のハード氏もニュージーランドから来北し臨席予定。



# 1926 (大正15) 年訓子府講義所の熊、騒動

ピアノン会理事 玉置 義弘

昨年のニュースで熊の出没が全国的に話題になることが多かった。幸いピアノン記念館のある北見市では、熊が街中に出没のニュースはなかったが、駅前ホテルの駐車場に、エゾシカ出没という出来事はあった。

が、熊が入って出ていった痕だ。この出来事は1951年(昭和26)発行の訓子府村史に、開拓期の古老の話として掲載されているので下記に記す。

【写真左】ピアノンが米国に送った年次報告同封の写真。

## ○熊が白昼訓子府市街を走り回った話!!

昭和元年4月初旬稲積牧場に放っていた馬を倒した5・6歳位の熊が血に狂って常呂川を渡って訓子府市街へ突進、本光寺付近から大通りへ抜け向かい側のキリスト教会の表玄関に突き当たり、ガラス戸を破壊して大通りを西に向け幕進、駅通りに曲がり、北1条を西に向かって柳橋医院より更に南に突き当たりこれより右転

が同封されており、その写真が撮影されることになった経緯が書かれている。写真は訓子府講義所の前で撮影されており、1926年(昭和元年)4月26日の午後5時頃、熊が村の中心街をぶらつき、熊は石や棒きれを投げつけられて追われると講義所の中にガラス戸を壊して飛び込み、また出ていったと書かれている。講義所の前に立つアイダ婦人の後ろのガラス戸が壊れている



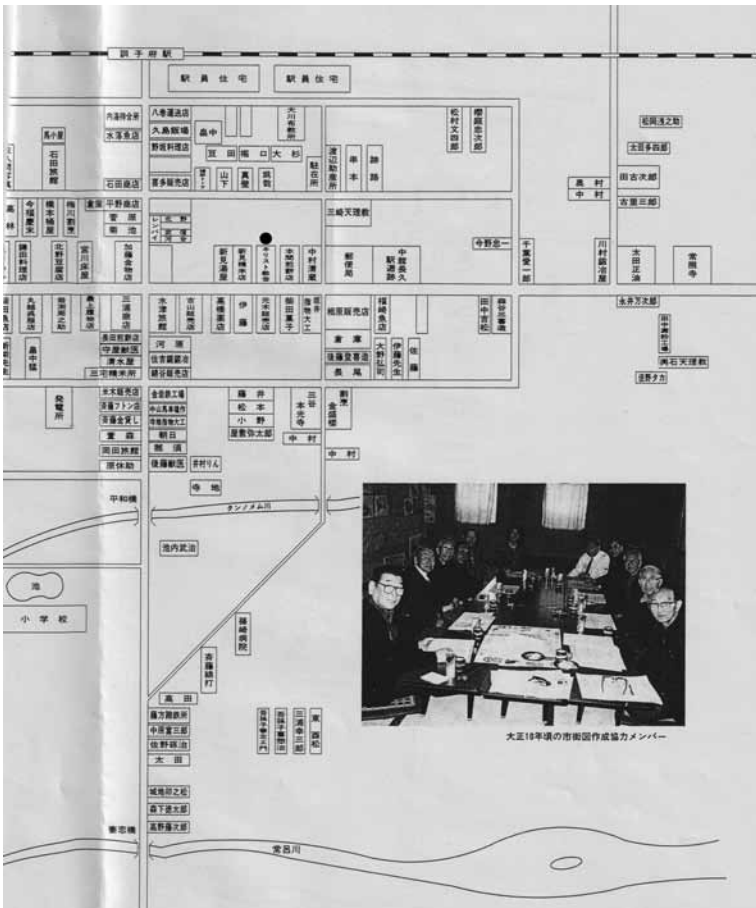
役場付近から常呂川へ引き返し、川を渡って穂積事務所付近のやぶにひそんだ、これを追いかけたのが八島巡査、金野兼吉、永井萬次郎その他数名、やぶにひそんだ熊に自分が先ず一弾を放ったところ肩に命中したが、この弾は散弾であったので致命傷にはならず、とうとう南方山林深く逃げてしまった、幸い人馬には被害はなかった。この熊はあとで津別付近でアイヌが射止めたという。

村史では4月初旬となっているが、日付はピアノンの記録が正しいと思う。

日本基督教会訓子府講義所は1919年(大正8)にピアノンが土地を借り受けて設立。ピアノン帰国1928(昭和3)年後の1935(昭和10)年頃には閉鎖となり、1941年(昭和16)に

所有者移転登記されているが、戦争のため敵国財産として没収処分になったようだ。ピアノンのレポートでは熊は人々に石や棒きれを投げつけられたとあるが、訓子府村の人々は、熊から逃げ惑うよりも勇敢に熊を追いかけたのだろうか？

【参考資料】左の地図は、1921年(大正10)頃の訓子府村の市街地図。訓子府商工会30周年記念誌1992年(平成4)発行による。(地図上、●の印を入れた処が訓子府講義所)



# 「メイソン&ハムリン」

制作年 1878 (明治 11) 年、146 年以上の歳月を経たピアノン夫妻愛用のリードオルガン。オルガン本体の大きさ：巾 120cm × 奥行 56cm × 高さ 110cm (装飾除く)。230 型、9 ストラップ、製造番号 6569。



インターネットで調べてみると、《メイソン・アンド・ハムリン (Mason and Hamlin) は、アメリカ合衆国マサチューセッツ州ハヴァーヒルに本拠を置くピアノメーカーである。》と紹介されている。また、《1854年、ヘンリー・メイソンとエモンズ・アムランによりボストンに設立。オルガン製作が元であったが、1883年にピアノ製造を開始。米国ではスタンウェイに次ぐ高級ピアノと認識され有名であるが、日本には輸入数が少なく知名度も充分ではない。》

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

夫妻がいつ頃からこのオルガンを使用していたかは明確ではなく、

また、どのような経緯で日本に持ち込まれたかも記録では残されていない。

野付牛時代のピアノン邸内写真にこのオルガン画像が残されている。またピアノン邸での日曜学校などにも使用されていたとの記録もある。教会ではなくピアノン邸で使用していたものであったことは間違いない。

ピアノン夫妻帰国時に、野付牛教会(現北見教会)に寄贈され、以後教会で長い間使用されていた。ピアノン邸が修復復元後記念館開館時に教会より戻された。

全国的にも非常に貴重なものがあり、また現在もコンサートなどで使用されている。

## 留学生交流の夕べ



コロナ禍で中止になっていた北見工業大学の「留学生交流の夕べ」が2月15日、工大アトリウムで開かれ、約120人が参加しました。4年ぶりの開催でした。今年度末には、計23人の留学生が、就学を終える見通しです。鈴木学長が冒頭、「言葉の壁や文化の違いで苦労したことがたくさんあったと思います。しかし、今まで大学や地域で経験し学んだことは、貴重な財産です。」と挨拶。留学生の努力をたたえました。

ピアノン会の齋藤直樹理事もこの交流会に参加し、今年度製作したピアノン記念館オリジナル英語版エコバッグを、留学生5人へプレゼントしました。写真はネパールからの留学生に、齋藤理事がエコバッグをプレゼントしている画像です。記念館のシルエットがデザイン化されたバッグを手に、「愛用します!」と、笑顔で応えてくれました。

## 「ピアノン学事始め」

この「ピアノン学事始め」は、22年前に街の情報誌に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

### (18) ピアソン夫人と矢島 梶子との出会い

ピアノン夫人は、日本基督教婦人矯風会の活動に、積極的に参加し、野付牛(現北見市)町では、遊廓設置阻止という成果を残したことが知られています。この運動に参加し始めたのが、いつの頃か知らぬか不明でした。しかし貴重な資料と写真を見つけることができ、いろいろな事がわかるようになりました。

され、その中にピアノン夫人の活動が見られるのです。

「婦人新報」明治三二年九月号によりますと、会の集会で『社会道徳に関する統計表に付いて』と題した報告がなされたとの記載があります。これ以降、夫人の転居の先々で婦人矯風会支部が結成され、活動報告を見ることができま

特に旭川時代には矢島会頭と一緒に首相官邸訪問、野付牛在住の時には、矢島会頭自身が(八十才を超えた年令にもかかわらず)当地にピアノン夫人を訪問していることがわかったのです。



写真/1917(大正6)年9月、ピアノン邸訪問記念撮影。

# 「ニュージーランドからの便り」第44回



ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏

2024・2・9 (金)

◆北見の寒中にもかかわらずお変わりなく過ごしています。こちらニュージーランドでは暑い夏を快適に過ごしています。ここ数年で一番良い夏休みシーズンです。

◆昨日は、北島の中央を500km南下してファンガヌイへ来ました。今日の予報は最高29度ですが、今まさにその感じです。昨日は走行中にルアペフ山がすっきりと見え、頂の山巒には雪がありました。

◆今朝、果樹を見に行くと、どれも良い形で、プルーンとダムソンスモモが濃い紫色に。熟したようですが、摘むにはもう少しおいた方が良さそう。好天が幸いして、北の自宅へ帰る頃には完熟すると思います。林檎と梨は、よくできていますが、収穫までにはひと月以上かかりそうです。枝に重みがかかりすぎ、適当に剪定します。◆2月6日は、ワイタング・イン・ザ・ベイ・オブ・アイランドでニュージーランド国の祝日を記念する盛大なお祝いが行われました。1840年に、マオリの首長たちと英王国の間で締結されたワイタ

ンギ条約『民族の独自性を尊重し権利擁護を保障する条約』を記念するため、マオリの人々が国内全土から集まり、首相と政界の指導者たちも集まって、例年のように、マオリの代表者たちとディスカッションをしました。

◆マオリの人たちや多くのニュージーランド人たちは、新しい連立体制が、マオリ言語使用の面ばかりか、健康面や司法の面で、マオリの人々の待遇を低下させていることを気遣っています。皆は、このような政治が、マオリの人々が条約で保障されている権利を脅かしている、と言っています。全体的に見て、ニュージーランド人と比較しても経済的にも優遇されず、刑務所内人数も度を越しています。ある人たちは、マオリを優遇しないで皆同等に、と主張し、これは難しい事で、強硬な意見もまたあります。他の側面で、気候の変化とか環境保全など、新政府は新しい政策を打ち出そうとして、行政上の制約など削減しつつ前向きに、と表明しますが、人々は、主張に反して後退していると感じています。グラハム・ハード

2024・2・18 (日)

プルーンとダムソンスモモ

◆昨日、ファンガヌイからファンガバラオアへ戻りました。暑かったけれど、快適なドライブで、車には前日摘んだプルーンとダムソンスモモが。途中、弟のマーレイと姉たちジュディとスタンのところへ降ろしました。「写真・プルーンとスモモ」今朝は、幾らかのスモモでスチュー\*を作り、残りプルーンは冷蔵庫です。\*（果物をジャムより多く形が残るように煮詰める。）



2024・3・11 (月)

日本への旅行プラン

◆北見の冬がさほど厳しくなかったとは良かったです。こちらは快適な初秋の日々です。昨年のような

な豪雨や洪水はありませんでした。

◆今年、再び、5月と6月の日本旅行を予約しました。

予定は、千歳着5月15日(水)、帰国は、6月20日(木)。北見へは、札幌発JRで5月24日(金)〜北見発JRで5月31日(金)。滞在はプラザホテル。

◆北見滞在中に、ピアソン会の方々同様、ESSの皆さんとお会いできますように。

◆再会を楽しみにしています。お元気で。 グラハム・ハード

## 飛び出す便箋！ピアソン邸

三柏の杜の中に建てられたピアソン邸。ヴォーリズ設計図面による「切り絵による飛び出す便箋」として再現しました。余白の部分に手紙文を書き、折りたたんで書簡として送ることが出来ます。親しい人への近況報告など、ご利用ください。(封筒付き)



ピアソン会で800円にて頒布。

## 編集後記

ようやく日本の北に位置するこの地方にも春の訪れを感じる気候が続いています。約4ヶ月にわたる雪の季節が終わると思うと、心が軽くなります。

この頃になりますとピアソン記念館一階床にも、啓蟄の候をむかえたフラジ虫たちが毎朝挨拶に顔を出してきます。

北海道庁のシンボルのな建物「赤れんが庁舎」が改修されます。この期に北海道遺産を紹介展示するコーナーができる計画です。ピアソン記念館の紹介展示も予定されています。赤れんが庁舎は、ピアソン宣教師が日本に来た1888(明治21)年に道庁本庁舎として建てられていますので、何か不思議な縁を感じています。

新年度をむかえました。約4年間にわたる新型コロナウイルスの行方はどうなるのでしょうか？いい加減に終息してもらいたいものです。マスクも顔に馴染みすぎて、時々家でも、しばらく外すのを忘れていたことがあります。習慣なのか、歳によるボケ？なのか。

新しい年度でも、記念館でやるべきことが山のようにあります。猫の手でも借りたところですが、残念ながら学芸員的な素養を必要とすることはあります。

(副理事長兼事務局長) 伊藤 悟

瞳ふぁっしゅん・瞳けあ

めがね @ よっしー

代表 岩井 敏忠

〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目

携帯 .090-2693-1919 TEL. 0157-57-3664

定休日/毎週木曜日・営業時間/10時～19時